

『土湯の森』で平成20年(第2回)植生モニタリング調査を実施

昨年に引き続き、10月5日(日)に最上川スキー場跡地で2回目の植生モニタリング調査を行いました。

今年度は、発生稚樹を把握するために昨年設定した4箇所(森林再生ゾーン〔刈払区、対象区〕、自然推移ゾーン〔、〕)の調査プロットに加え、今年6月に植栽したブナ等の稚樹を調査しています(図1)。

この調査にあたっては、山形大学農学部の高橋教夫教授と学生7名のほか、神室山系の自然を守る会からの協力をいただきました。



植生調査



調査後の意見交換

発生稚樹の調査結果をみると、スキー場跡地上部に位置する森林再生ゾーンでは、30cm未満のスギが大部分を占めています。また、刈払区では本数が多くみられますが、昨年調査した本数と大きな違いが見られないことから、刈り払い以前に発生していたものと考えられます。

スキー場跡地下部の自然推移ゾーンでは、30cm以上に生長したのも比較的多く(5,000本/ha)見られることから、順調な更新が期待できます。

植栽木の調査は、植え付けした289本全てを対象とし、樹種や苗高のほかに植栽木の状態と被害状況等を把握しています。

この植栽木は、昨年山取したもので、ブナが多く平均苗高は34cmでした。また、調査時点での正常活着は59%、枯死は7%という結果となっています。さらに特徴的なのは、植栽木の96%が何らかの被害を受けており、うちウサギによる食害が57%を占めていることが挙げられます。これら被害については、引き続き状況を見ながら必要な対策を検討する必要があると考えています。

今後、森林の再生に向けた取組を継続していきながら、モニタリング調査による検証を進め、より良い取組へと繋げていきたいと思えます。

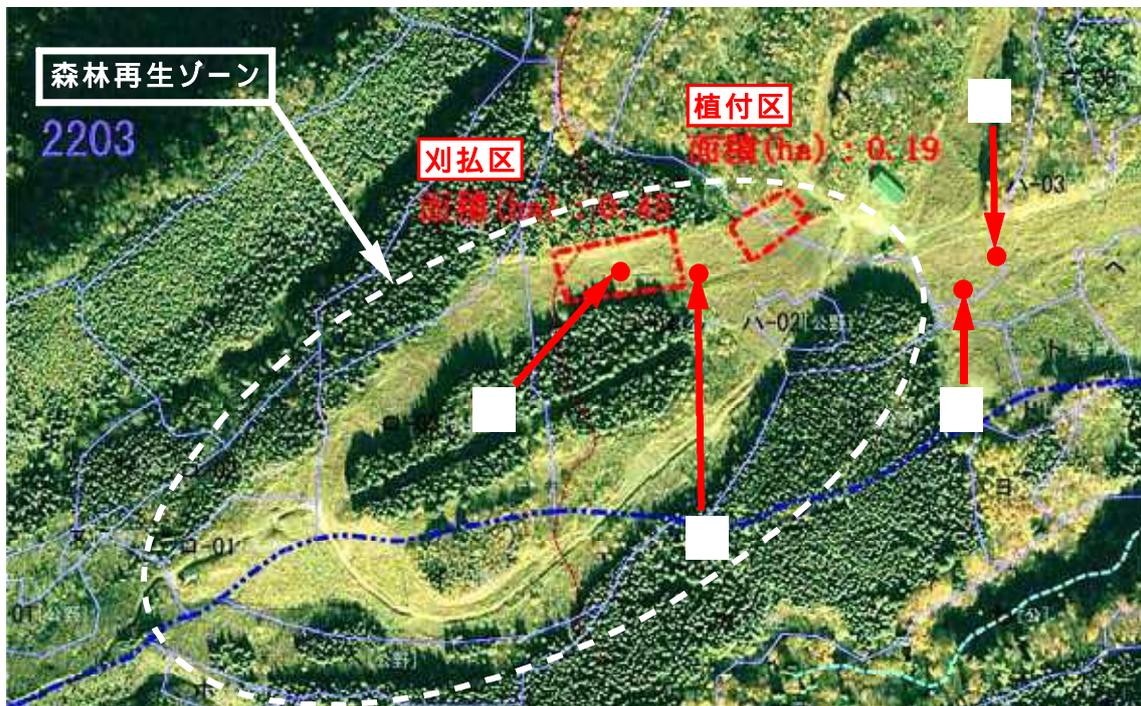
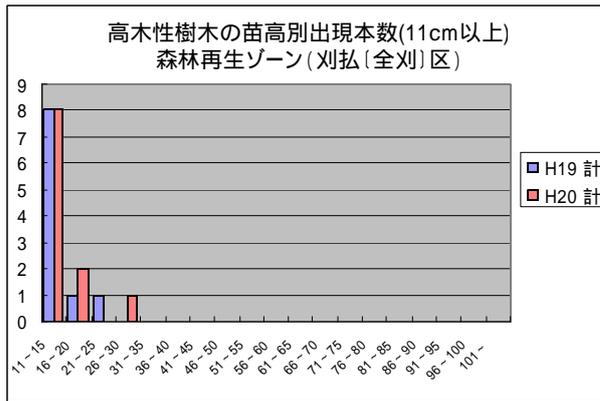
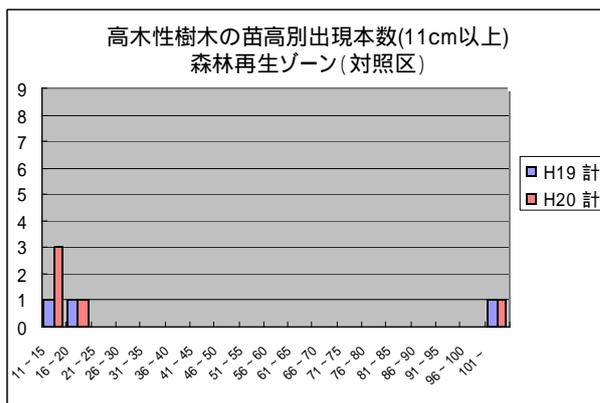


図1 調査プロット位置

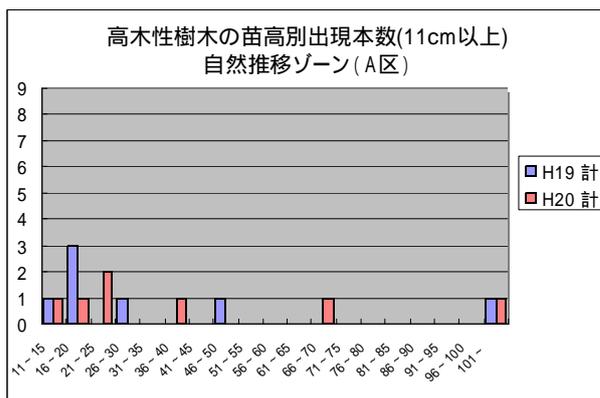
発生稚樹調査



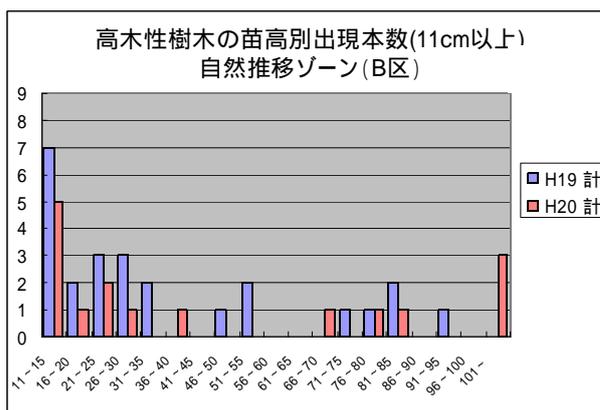
- ・ 平成19年度に引き続き、今年度も刈り払いした区域内的の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギのみ。
- ・ 昨年あったイタヤカエデ1本が無くなった(原因:不明)。
- ・ 本数は昨年度の10本から11本へ1本増加した。また、少し苗高の生長が見られる。



- ・ 対照区として設定したプロット内の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみ。
- ・ 稚樹の苗高は低く、本数は5本と少ないものの、昨年調査より3本増加した。

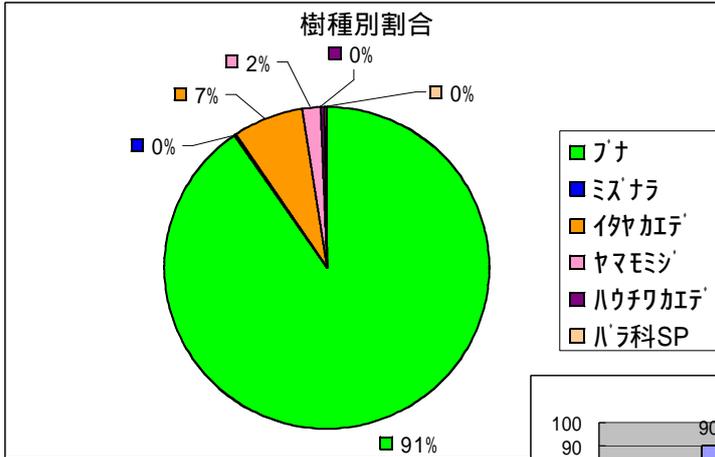


- ・ 自然推移ゾーン内に設定したプロット内の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギとアカマツの2種のみで、昨年調査されたヤナギが無くなった。
- ・ 本数は7本と変わらないものの、昨年より少し苗高の生長が見られる。



- ・ 自然推移ゾーン内で林縁に近く、ブナの生育した箇所に設定したプロット内の調査である。
- ・ プロット内の稚樹(11cm以上)はスギの外4種類の樹種が見られる。
- ・ 本数は16本と昨年調査時の25本より9本減少した(原因:不明)。
- ・ 苗高101cm以上に大きく生長したものが3本あり、順調な更新が期待される。

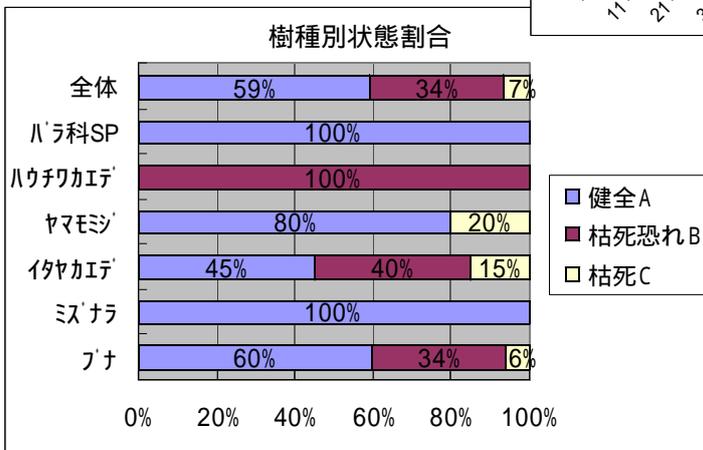
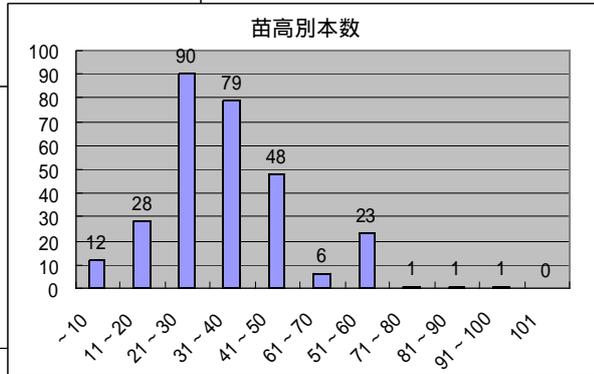
植栽木調査



植栽木は昨年山取し、ポットへ仮植していたものを使用。

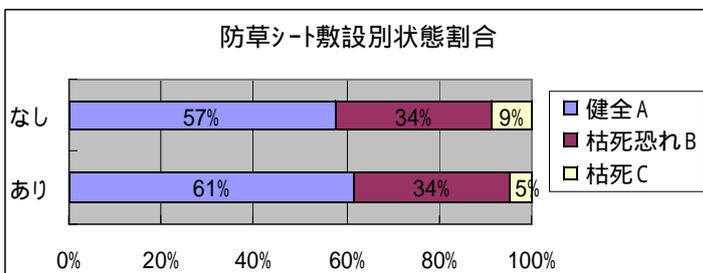
本数割合 ブナ 91%

平均苗高 34cm



植栽木の状態

正常活着 59%
枯死 7%



防草シートは、防草効果のほか、乾燥防止の効果を期待して敷設。

